

年 組 名前：

県「空飛ぶクルマ」活用へ予算計上 来年度ヘリで実証飛行

13日に開会した2月定例県議会に、関連事業費1797万5千円を計上した新年度一般会計当初予算案を提出した。県によると、実証飛行は県内の既存のヘリポートを活用する方針。本年度、調査を進めているルートに近い経路で行う予定という。甲府エリートや、県内遊覧ルートなどが想定されているが、詳細な調査結果は現在、取りまとめ中という。

県は空飛ぶクルマについて、観光、ビジネス、地域交通の分野での利活用を想定。自治体や民間事業者によるネットワーク組織をつくるなど、事業環境の整備や社会の

次世代の移動手段として期待される「空飛ぶクルマ」について、県は来年度、社会の理解向上や周知に向けた取り組みの一環として、ヘリコプターによる実証飛行を計画している。飛行経路の安全面や実用面などの課題を抽出し、実現につなげたい考え。
（小池直輝）

（2025年2月14日付 山梨日日新聞20面）

経路や実用面課題抽出

理解度向上を図つて、早ければ2020年代後半から、の活用を目指した将来ビジョンをまとめている。予算案には関連する展示会の出展に関する費用も盛り込んだ。

II 関連記事 24面

一方、リニア中央新幹線の開業を見据えて県が研究を進めている空港整備を巡って、来年度、空港の整備費や運営費について調査する方針。県の適地調査の結果、「可能なある候補地を複数選出した」（担当者）としていて、整備や運営にかかる費用を調べ、研究の材料としていく考え方。プライベートジェットの利用動向調査にも取り組む予定。関連事業費1898万3千円を予算案に計上している。

問1

山梨県は、「空飛ぶクルマ」の活用に向けて、ヘリコプターによる実証飛行を計画しています。そのルートを2つ答えてください。

- ・
- ・

問2

山梨県は空飛ぶクルマについて、どのような利活用を想定していますか。

- ・

問3

あなたは空飛ぶクルマに、何を期待しますか。自由に答えてください。

- ・